

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

台東区立桜橋中学校

	生徒の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な部分である分数や小数の計算で目標値を大きく下回っており、基礎的な知識と技能の定着が不十分である。 ・授業は意欲的に取り組むが、継続的に学習できておらず、家庭学習の定着が図れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算に不安があり、計算力の向上のために家庭学習での反復練習 ・数学的思考力を伸ばすために、定着した知識・技能を活用して応用問題に取り組む力 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力を身に付けるために、反復練習を多く取り入れる。また、どのように計算したのか途中の計算過程を必ず書かせることによって、計算過程を理解させる。 ・毎回の授業を大切に、数学の楽しさを学びながら繰り返し学習を大事にして知識の定着を図る。 ・单元ごとに確認テストを行い、間違えたところを再度見直しするようにする。 ・考えることを重視し、暗記に頼らず、思考力を付けさせる。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内では理解しているが家庭学習が徹底されていないため定着に不安が残る。基礎的な計算力も目標値を上回るものの不十分である。 ・「1次方程式の文章題の立式」、「文字式の説明」、「データの分布の傾向」、「比例の式をグラフにする」や「球の表面積」で目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反復練習での基礎的・基本的な計算力の向上や計算の原理の定着 ・筋道を立てて考え、問題の解決を実行する学習への指導や思考力・判断力・表現力等の育成のためにも、生徒自身の考えや説明を言語化して、理解を深めていく力 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に小テストや单元テストを通じて学習状況の把握をしていく。 ・立式からどのように計算したのか途中式の計算過程を必ず書かせることによって、計算の原理・ルールを把握させる。 ・解析学では表⇔式⇔グラフの関係を意識させながら指導していく。 ・幾何分野・データの分析では、ICTなどを使い、生徒の意欲・関心を高めながら視覚的に理解させていくようにする。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は意欲的に取り組み理解しているが、継続的な学習ができておらず、定着が図れていない。 ・計算問題は理解している生徒が多いが、「関数」、「図形（証明）」に苦手意識を持っている生徒が多い。 ・数学的思考力を必要とする問題を解けない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力向上を含む、基礎的な知識・技能の定着 ・基礎的な知識・技能を活用して、数学的思考力を必要とする問題に取り組む力 ・基礎となる条件や定理を覚えるだけでなく、命題を論理的に導く能力や文章や言葉を組み合わせて説明する表現力・証明能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストを実施し、基礎的な知識・技能の定着を図る。 ・学力向上推進ティーチャーと連携し、理解に時間がかかる生徒をフォローする。 ・家庭学習定着のために定期的に課題を出す。 ・单元テストなどを行い、基礎から発展的な問題に慣れさせる。 ・グループ学習を充実させ、「協働的に解決する力」、「説明する力」を育成する。